



平成 15 年 8 月 29 日

各 位

会 社 名 株式会社 ブロッコリー  
代表者名 代表取締役 木谷 高明  
(登録銘柄 コード番号 2706 )  
問合せ先 取締役財務経理部長  
興津 吉繁  
( TEL . 03 - 5372 - 6343 )

## 平成 16 年 2 月期中間及び通期業績予想並びに配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 15 年 4 月 18 日付「平成 15 年 2 月期決算短信」にて発表しました平成 16 年 2 月期(平成 15 年 3 月 1 日~平成 16 年 2 月 29 日)の業績予想及び配当予想を下記のとおり修正いたします。

なお、本件業績予想の修正と同時に発表いたします「株式会社タカラとの資本業務提携並びに親会社及び主要株主の異動のお知らせ」も併せご参照下さい。

### 記

#### 平成 15 年 8 月中間期業績予想の修正

##### 1 . 中間業績予想数値の修正(平成 15 年 3 月 1 日~平成 15 年 8 月 31 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前回予想 (A)	4,890	130	190
今回修正 (B)	3,977	419	1,674
増減額(B - A)	913	289	1,484
増減率	18.7%	222.3%	781.1%
前期実績 (平成 14 年 8 月期)	4,484	438	267

##### 2 . 修正の理由

###### (1) 売上高

売上高は、前年同期比 507 百万円減少し 3,977 百万円となる見込みであり、計画に対しては 913 百万円の見込みであります。内、店舗売上高は前年同期比 99%の 2,830 百万円 (計画比 94%) の見込みであります。新店舗の寄与分 170 百万円があるものの、既存店舗は前年同期比 90%、秋葉原地区は前年同期比 100% であるためであります。一方、本社売上高 (主にコンテンツ売上高) は、一部ゲームソフトの発売時期の下期へのズレ込み並びに当期アニメ放送を機に重点的に展開したキャラクターグッズ及び音楽 CD が思いのほか振るわなかったこと等が影響

して前年同期比71%の1,147百万円(計画比63%)に留まる見込みであります。

## (2) 経常利益

販売費・一般管理費は概ね計画通りの実績であります。売上高の不足により売上総利益が低迷したこと及び資本政策に伴う営業外費用が増加するため、経常損失が当初計画の130百万円から419百万円に膨らむ見込みであります。

## (3) 特別損失の計上

従来の拡大戦略の負の資産を一掃し、また消費者ニーズの変化に対応すべく、不採算店舗のスクラップ、思い切った在庫処分の実施及び開発途上の不採算ゲームソフトの廃棄処分による損失等合計597百万円を特別損失に計上いたします。

## (4) 中間純利益

この結果、税引前当期損失が1,015百万円となる見込みであり、この多額の損失を計上することに伴い、再出発の意味を込めて繰延税金資産649百万円を全額取崩す方針といたします。これにより、中間純損失は1,674百万円になる見込みであります。

### 通期業績予想の修正

#### 1. 平成15年2月期(平成15年3月1日~平成16年2月29日)業績予想

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	9,500	190	70
今回修正(B)	8,177	391	1,692
増減額(B-A)	1,323	581	1,762
増減率	13.9%		
前期実績(平成14年2月期)	8,211	1,233	753

#### 2. 修正の理由

中間期における損失処理の実施に続き、下半期は体制の立て直し期と位置付け、厳しい経営環境下ではありますが事業の見直しを実施するなど地道な企業努力を重ねることにより、以下のとおりの業績を見込んでおります。

##### (1) 売上高

売上高はほぼ前期並の8,177百万円に留まり、当初計画比1,323百万円となる見込みであります。内、店舗売上高は、前期比100%強の5,720百万円(当初計画比97%)であります。既存店舗が前期比10%程度のマイナス見込みであるものの新店舗がこれを多少補っており、また秋葉原地区においては店舗数減少にもかかわらず集約効果が出ていることで、前年並の売上高を確保できる見込みであります。本社売上は、卸売上が期待していたコンテンツ売上高が想定していた以上に厳しい状況に直面していること等を織り込み、通信販売(注)の増加があるものの前期並の2,457百万円(当初計画比68%)に留まる見込みであります。(注) 地方店舗がネット通販の影響を受けて伸び悩んでおり、これを補完しさらに発展させるべく質量ともに通販の体制を強化しております。

## (2) 経常利益

下期は収支はほとんどで推移する見込みではありますが、通期では上記の中間業績予想のように、売上高が計画を下回る結果その分売上総利益の金額が減少し、一方販売費・一般管理費が予定通りの水準で推移し、加えて営業外損益において資本増強にかかわる費用が発生するため、経常利益は当初計画の190百万円から391百万円になる見込みであります。

## (3) 特別損益

中間期の損失処理に加え、下期に特別損失として店舗異動に伴う損失等35百万円を計上する見込みであり、通期での特別損益が632百万円となる見込みであります。なお、当社代表取締役木谷高明の当社株式譲渡による現金贈与(注)に関しては、本件の業績予想には織り込んでおりません。譲渡価格等固まり次第、特別利益として計上の予定であります。

(注)本日同時に発表の「株式会社タカラとの資本業務提携並びに親会社及び主要株主の異動のお知らせ」をご参照下さい。

## (4) 当期純利益

通期の当期利益は、経常損失391百万円、特別損失632百万円に加え繰延税金資産取崩し等により、当初計画の70百万円の黒字から1,692百万円の当期純損失となる見込みであります。

### 配当予想の修正

#### 1. 配当予想の修正

	中間配当金	期末配当金	年間配当金
前回予想		2円	2円
今回修正		0円	0円
前期実績(平成15年2月期)		0円	0円

#### 2. 修正の理由

当期純損失の額が配当可能利益を上回ることになる見込みにつき無配とするものであります。

#### 今後の展望

今般の業績予想修正は、当社の再出発のため、早期にかつ思い切った手術を実施する結果であり、今後の企業飛躍のために避けて通れないステップと考えております。

一方、多額の損失計上により自己資本が大幅に減少することに対し、株式会社タカラに第三者割当増資を実施し、さらに経営責任の表明として代表取締役木谷高明による現金贈与を行うことによる財務体質の改善と信用力の強化、及び同社とのコラボレーションを軸にした事業の強化をはかることについて、同社との資本業務提携の基本合意を締結し、今後早期の業績の向上に努めて参る所存であります。

以上